

包括環境リスク研究プログラム

委員会の主要意見		
現状についての評価・質問など	包括的リスクの評価という高い目標を掲げ、明確な計画の下に進めている。各プロジェクト間の連携も明快で全体として統合的な研究が進められ、他の研究分野との連携にも積極的である。2年目となる今年度も数多くの成果が得られている。	目標や計画、プロジェクト間の連携、研究成果などについて高い評価をいただきましてありがとうございます。引き続き、成果の蓄積と環境行政への貢献を進めます。
	化学物質等の健康・生態リスクの包括的な評価・管理は、今後さらに進むと考えられる複合汚染対応として必須である。特に開発途上国などでの環境汚染物質による生体影響などのスクリーニング手法の開発は有用である。	複合汚染などの課題が先進国だけでなく、開発途上国などでも問題になってくる中で、簡易なスクリーニング手法（バイオアッセイや網羅的分析）の重要性は高まってきているので、今後様々な関連研究を進めます。
	化学物質の名称など、専門外の委員には分かりづらい点が多かった。名称とともに、物質のもつ特徴や当該研究で着目する特性などに簡単に触れることで、聞く側の理解も増すと思う。	ご指摘ありがとうございます。専門外の委員への配慮が不十分だったところもあり、物質の特徴や当該研究で着目する特性などに簡単に触れるよう、今後、説明資料の作成に留意します。
今後への期待など	技術開発の面では、PJ3の分子鑄型（MIP）を用いる手法の開発なども先端的で素晴らしく興味深い。現時点では定量的には大まかな分類にとどまっているとのことだが、今後、より緻密なアッセイに発展できることを期待する。	ご評価いただき、ありがとうございます。MIPへの親和性と甲状腺ホルモン活性との相関性は大きな成果であり、アッセイの省力化に大きく貢献することが期待されますが、定量性については課題も残っており、引き続き開発・改良を進めます。
	個々の化学物質の毒性についての解明と同時に世界の全化学品の分布とリスク推定の取組は大変重要な情報を提供する。今後、成果の一般社会への共有を進めてほしい。	評価いただきありがとうございます。今後、成果の一般社会への共有について、留意しながら進めます。
	PJ1における健康有害性指標は神経系以外にも順次検討されると期待している。	紹介した神経系のほか、免疫系や内分泌系、生殖・発生などについても検討を進めており、今後、順次結果の一部を紹介していきます。